



井上 康子／「模型(光源・塑性)」3枚組の内1枚  
綿布、染料、160cmcm×220cm、2016



上段左：  
「イケバナ/a fresh flower」／塩見 友梨奈  
プリント布・綿、2017

上段右：  
左「新しいお化け」、中「& Co.」、右「Key is key, Lock is lock」／井上 康子  
ともに光沢紙、染料、2017

下段：  
展示風景「模型(光源・塑性)」／井上 康子



塩見 友梨奈／展示風景  
右奥「首吊りビリー」プリント布・キルト芯他、ブランコ、2013  
左奥「not stuffed animal」綿布・染料・ぬいぐるみ他、モビール、2014

「染織」を起源にもつ表現も多岐に渡る。本展は井上康子、塩見友梨奈が「ダビング」というテーマに沿って企画した。

自ら撮影した写真を基に、布に描くように染められた作品を制作する井上康子。支持体である布は天井から吊られ、布の持つ薄さやゆらぎを感じさせると同時に、表裏一体の画像の出現を試みる。

一方展示会場の空間には、塩見友梨奈の布による立体造形作品が並ぶ。鮮やかなプリント布を用い、自身のテーマであるつぎはぎされた身体 of 抜け殻を、不気味さと軽やかさを持つて表現している。

双方とも染織と、それ以外のメディアも取り入れた作品を展開しており、造形的な新規性に加え、多様な染織の在り方を示している。